

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700244		
法人名	医療法人 緑光会 野宮病院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家		
所在地	北海道岩見沢市5条東18丁目57番地		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【こぶしユニット】 行司の時はできるだけ全家族に参加協力して頂き、共に力を合わせて入居者様の「笑顔」をひき出せるよう支援して行きたいと思いをします。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=t_rue&JigyosyoCd=0175700244-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは岩見沢市の郊外にあり、開設して10年となります。広いロビーと各ユニットは木材が多く使われた温もりが沢山感じられる作りとなっています。天窓から差し込む陽射しは暑さを遮り、寒さを遮断する快適な空間が確保されています。何処へ行っても温度差がなく快適な環境で利用者は、得意な調理や片付け、整理整頓、趣味の俳句や詩吟、書道や編み物等を継続している場面が見られ、作品も掲示し来訪者の目を楽しませてくれます。職員の定着率が高く、研修体制の充実や取り組み意見が反映されるなど全員が正職員として勤務しています。また、職員はホームユニット内の異動もあり、利用者にとってどのユニットに行っても見慣れた職員がいる事で安心して繋がっています。イベントや利用者との関わりでは、家族の協力が積極的にあり関係を大切にしています。利用者が一番の楽しみとしている食事については、レストランや専門飲食店のような調理内容で見た目も味も素晴らしい内容となっています。家族にとって医療法人が併設されている事で、利用者の健康管理と将来に向けて安心して相談が出来る頼れるホームとなっています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町内会に加入はできたが、一員として行事に参加する事ができなかった	「人間統合」「自然統合」「地域統合」を基本としてホーム独自の理念が掲げられています。文面が長く職員全員が全文を理解するところまで至っていませんが、人としての尊厳や権利を守る内容については常に意識し、目線を合わせる会話や言葉遣いに気をつけるケアの実践に繋がっています。	現在理念についての見直しが検討されており、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら管理者と職員と一緒に話し合う事で事業所独自の理念を作り、その理念を共有して実践に繋げるように期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流できているとは言えない。夏まつりぐらいになっている	町内会に加入する事で、案内板にイベントのポスター掲示や事業所の情報を回覧してもらっています。利用者と近所の散歩や日光浴に出かけ、近所の方と挨拶を交わす事もあります。地域との関わりについては全ユニットが課題としており、交流推進については今後も検討が継続されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へはなかなかできていない			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催。入居者さんが食べているおやつ等試食してもらったりして意見交換が気軽にできるよう努めている	運営推進会議の開催案内を参加者に周知し、2ヶ月に1度の開催が続けられています。行政職員と地域包括支援センター職員、町内会長の参加があり、ホームの状況や活動報告が行なわれています。また、イベント開催の相談やアドバイス等もありホームの運営に反映し、サービスの向上に活かしています。	今後は、運営推進会議の議題について明確にお知らせし、テーマに沿った講師の依頼や、幅広い知見者のメンバーを募ったり、地域への呼び掛けや参加していない家族からの意見の収集等運営推進会議の開催により、地域に開かれたホームとなるように期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村より担当の方が参加され協力関係を築けるよう取り組んでいる	行政の窓口には、事務担当者が直接出向き申請や手続きを行なっています。運営推進会議の時に担当者から、市内の状況や情報提供があり、協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はなし。玄関の施錠は7:30~6:30頃までとしている	身体拘束や日中の施錠は行なっていません。特に言葉遣いについての取り組みに力を入れ、各ユニットの会議や申し送りや身体拘束防止の内容と合わせ話し合っています。一つのユニットでは職員対象に意見箱を用意し、その時に気付いた内容を忘れないように投かんし、会議で検討しています。転倒予防や素早い対応が出来るように、布団に鈴を付けることについては家族と十分に話し合い、経過状況の把握も行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する声掛け等ユニットミーティング、ユニット内の意見箱等を利用し、スタッフ間で注意し合えるよう努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会はなかった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際、施設長が説明し理解・納得してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やケアプランの見直しの際、面会時には意見や要望を必ず聞き取るようにしている	家族会はありませんがイベント開催時には多くの方の協力があります。ホームとして家族同志が語らえる場面を作り、意見が言い合えるように努めています。意見箱を設置しましたが、投稿はまだありません。職員は家族が話し易い雰囲気作りに努め、面会時に意見や要望を聴かせてもらい、個別対応やケア内容、ホームの運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティング、ユニットミーティングで意見や提案を反映している	各種会議では、担当制もあり活発に意見交換が行なわれ、現場の声がケアや運営に反映されています。職員教育についても積極的に行われ、実践者研修等も全員が受講終了しています。施設長や管理者から現場職員に直接声掛けし、労ったり悩みの相談もしています。3ユニットの交流もあり、職員異動を行う事で利用者の不安が軽減でき、利用者の安心に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務時間内ではケアプラン等に係る時間が少ない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は少ないが、受けた研修内容をホーム内で勉強会を開き共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を持つ機会は少ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時やケアプラン作成時、本人への聞き取り、又、日常の会話より不安に思っている事等を見極め、安心な関係作りに繋げて行く		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者さんの日常生活の変化を報告。不安に思っている事がないか、一緒に解決できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院受診。入所時の不穏に対する支援の仕方について家族、担当医、施設長で話し合いをもつ		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け、食事を一緒にする。おやつタイム等を共にする事で関係作りにつなげる		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんは家族と一緒にいる時、笑顔が一杯になる事が多いように思えるので、行事に参加してもらい一緒に支えて行ける関係作りをしたい		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会は少ない	利用前からの趣味や得意な事をレクリエーションで取り上げたり、俳句や詩吟等もホームの中で続けています。イベントの時には得意な事として披露したり、入浴中の詩吟はより入浴を楽しみやすい機会としています。習字や編み物を続けている方も、作品としてホール内に掲示し、来訪者の目を楽しませています。電話や手紙も取り次ぎや支援で対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業したり、ゲームをしたり入居者同士が会話を楽しんだりして孤立しないよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してしまうとなかなか続かない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の担当者会議にて見直し	ケアマネージャーを中心に、初回は細かくアセスメントを行ない、その後6ヵ月毎に新しくアセスメントの取り直しを行なっています。表現出来る方はそのまま思いを取り上げ、困難な方は家族の意見や、日常の会話や仕草から利用者本位に捉えるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月の担当者会議にて見直し		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんのできる事、出来ない事の見極め。体調把握、特変がある時は看護師へ報告		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリング、担当者会議にて家族の要望等も取り入れて現状に即した介護計画作成に努めている	職員は担当制とし、「月間サービス実施表」に毎日記入する事でサービス内容をチェックし、日々の記録で評価も行っています。3ヵ月毎モニタリングを行ない、短期目標について実施内容を記載しています。家族の面会時や日常の会話からくみ取った内容を、カンファレンスで責任を持って意見や気づきとして提案し、次期ケアプラン作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット内の意見箱、引継ぎノート、ユニットミーティング等を活かし、スタッフ間でちょっとした気づきを共有する事で介護計画につなげる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのその時の状態に合わせてケアプランを変更している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している保育園からの園児訪問		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受けられている	利用前の主治医を継続し、入居後もかかりつけ医から適切な医療が受けられるように支援しています。基本的に受診は家族が対応し、受診後の報告を職員は詳しく聴いて記録しています。歯科や皮膚科、眼科等他科の受診についても家族が対応し、家族との関係を大切に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝・夕の経過報告。特変時報告等を利用して情報を伝え、適宜対応してもらっている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェースシートや電話等にて情報交換			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、隣接している野宮病院の担当医が家族と話し合い、十分に説明し方針を決めている	これまで看取り介護の経験はありませんが、家族の要望があれば担当医師とスタッフ、家族が十分に話し合い、方針を共有する事でその後の対応を検討しています。「看取りに関する指針」には細かく対応内容が記載され家族の安心となっています。「看取りについての同意書」も用意され、終末期の対応方法も整備しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜問わず、隣接している野宮病院の医師や看護師が対応してくれる			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会等の協力体制はないが、隣接している野宮病院の職員との協力体制はできている	消防署立会いの下、年2回日中・夜間想定避難訓練を行なっています。併設の病院との協力体制はありますが、地域との協力体制がまだ構築されていません。自動火災警報器・感知器・非常階段・非常誘導灯消火器等の設置、隣接の病院の自家発電の装置も備えている。	火災や災害時については、地域の協力が欠かせないものであり、相互協力の下、助け合う気持ちと事業所の実情を理解してもらおう為にも一緒に訓練に参加を頂く事が望まれます。地域の方の参加もある運営推進会議と合わせ、訓練後に感想やアドバイスをいただく機会を設け、検討することを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方、トイレへの誘い方は、なるべく耳元で話すよう努めている	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねる事のない声かけや対応に心がけています。このホームでは特に声掛けや言葉遣いに力を入れ人格やプライバシーに配慮した支援に努めています。個人情報や各種書類は適正に管理されています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一にしたり、声掛けして希望を聞いたりする			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間等を入居者さんに合わせている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時や外出等の際には本人の希望を取り入れたり、二者択一で衣類を決めて頂いている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見て「何が食べたいですか」と聞いたり、できる事を手伝ってもらったり、片付け等を行っている	栄養士によるメニュー、利用者の嗜好を配慮したメニューが曜日によって提供され、健康管理や食べたいものが取り入れられる楽しい食事となっています。どのユニットでも利用者が下ごしらえを手伝い、職員と一緒に役割りとして調理に参加している姿が見られます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい大きさにしたり、主食はお粥等にした。飲み物はその人の好みに合わせて提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、時間を見てその人にあった声掛け、トイレ誘導を行っている	日頃から水分調整、繊維質のある食材の選択で排泄のコントロールに気を使っています。利用者毎の排泄パターンの把握により、個別に声掛けしトイレでの排泄を基本に支援しています。利用前の排泄状況が改善されている方も多く、看護師との連携により情報交換を行い、自然な排泄が行なえるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医、看護師への相談、下剤調節、乳製品、水分摂取の促し。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂で音楽をかけたり、歌ったりしている。入浴日は決めているが変更は可能な状態である	週3回の入浴日で利用者は入浴を楽しんでいます。それぞれのユニットで浴槽の形態も違い、その人に合った入浴場所を選び、また仲の良い利用者と一緒に入浴する場面も見られています。身体状況に応じた清拭やシャワー浴の対応も、個々に沿った支援となっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のその日、その時の体調に合わせて休息してもらうようにしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化については都度看護師に報告。又、定期的に担当医が様子を見に来てくれる為、変化の確認も取れるようになっている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外泊、詩吟、習字、歌等のレク、散歩等。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により自宅での生活を月の内1/2くらい過ごされている方もいる	夏場の気候の良い時は、近所の散歩や日光浴に出かけています。大型スーパーへの買い物はイベントとして行い、ホーム主催の夏祭りはホーム最大の行事として、利用者も楽しみにしています。ホームの菜園もあり、多種類の野菜を利用者と一緒に収穫する機会もあります。外出や外泊については、家族との関係継続の支援を続けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族が行っており、入居者さんは小銭くらいしか持っていない			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に用事がある時は電話を掛けられる入居者もいるが、耳が遠い為なかなか本人は掛けられない。毎月のお手紙に書いて届ける事もある			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が判るように飾り付けをしている	玄関を入ると木の温もりがある広いロビーは、温かさとゆったりと暮らせる心地よさを感じる事が出来ます。それぞれのユニットのリビングは季節を感じる事が出来るように、現在はひな祭りを祝う掲示物が、彩りを楽しませてくれます。天窓から入る明るい日差しがホーム内の空気も明るくし、仲間と寛げる場所、家族と語らう場所、楽しく皆で食事を楽しむ場所が用意されています。利用者はそれぞれ気に入った場所で、生活を楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやロビーにソファの設置。気の合った入居者同士で話をしている。居室内にソファを置いて、好きなビデオを見ながら楽しんでいる			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ってきた方もいらっしゃる	居室を含めホーム全体の温度管理・湿度調整を行ない利用者が快適に過ごせるように工夫しています。どの場所も温度差がなく、急に体調の変化が起こる事のないように配慮されています。カーテンや暖簾、ベッドが設置され、各ユニットごと居室のカーペットの色を変え、慣れ親しんだ家具の持ち込みや家族の写真・作品が掲示してあり、落ち着いて過ごせる空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者がつまづいたりしないで安全に生活できるようタンス等の配置には配慮している。			